

地図指摘法による阿蘇の草原景観に関する地域住民の認識構造についての研究

○ 佐藤 芳郎 (東京農業大学造園科学科研究生)

猪瀬 怜子 (東京農業大学大学院造園学専攻)

1、研究目的

熊本県阿蘇地域の草原景観は、雄大な景観が人々を魅了し、多くの観光客が訪れている。しかし、この草原景観は、人々の営みによって成り立つ二次草原であり、地域住民の野焼きや輪地切り等厳しい維持管理作業によって守られてきた。近年畜産業の低迷や少子高齢化等により、草原の維持管理が困難となり、草原景観が次第に失われてきている。そこで、現在、阿蘇地域では広大な草原景観の保全計画が大きな課題となりつつある。しかし、草原の保全計画を取り組むにあたり、実際に維持管理作業を担っている地域住民の協力や合意形成を得ることが大変重要であると考え、また、そのためには地域住民の草原景観に対する認識を空間的に把握しておくことが必要となってくる。そこで、本研究では地域住民の草原景観に対する認識構造を明らかにすることを研究の目的とした。

2、調査方法

2001年3月10日から14日にかけて調査員21名により、阿蘇郡6町6村(一の宮町、阿蘇町、小国町、南小国町、産山村、波野村、蘇陽町、高森町、白水村、長陽村、久木野村、西原村)において、地域住民を対象にヒアリング形式のアンケート調査を行った。アンケートの設問内容は2つあり、

(1)阿蘇地域全体で好きな草原景観

(2)あなたが住んでいる地域の中で好きな草原景観

という質問の中で、同時に、1/25,000の縮尺の地形図上に好きな草原の場所を指摘してもらった(地図指摘法)。これをもとに指摘頻度の高い草原とそうでない区域を明らかにし、次の2つの分析を行った。

①地図指摘法による認識構造

②居住地(南北)の違いによる認識構造

3、結果および考察

アンケートの結果、176人の回答を得、163件の有効回答(男94、女69)が得られた。これをもとに、特に認識度の高い区域を明らかにしたものを表-1に示す。

①地図指摘法による認識構造の分析

表-1より、「阿蘇五岳」「草千里ヶ浜」「根子岳」「大観峰」「北外輪」「瀬の本高原」「米塚」「仙酔峽」等の阿蘇の顔とも言える代表的な区域が多く件の数を集め、「端辺原野」「夜峰山」「狄岳」「清栄山」等、一般的に知名度の低い区域は件数が少ない事が分かった。

次に注目すべき点は、「阿蘇五岳」「北外輪」「南外輪」の様に特定の場所ではなく、かなり広範囲で漠然と捉えている区域が、約30%を占めているという点である。その他の区域にしても、全体的に人がマクロなスケールで草原景観を捉えていることがわかった。

表-1に挙げられた区域の草原はそれぞれ多様な魅力的な地形を持っていて、それらをマクロなスケールで観ることによって人々は強い印象を得ていることがわかった。

②居住地(南北)の違いによる認識構造の分析

次に、居住地(南北)による認識構造の違いであるが、まず、阿蘇の地形的な特徴として、阿蘇地域は阿蘇五岳を軸に南北2つの領域に分けることができる。そこで阿蘇6町6村を北(一の宮町、阿蘇町、小国町、南小国町、産山村、波野村)と南(蘇陽町、高森町、白水村、長陽村、久木野村、西原村)の2つのグループに分け、表-1で明らかにした草原の指摘件数を、居住地(南北)ごとにその件数と割合を明らかにしたものを表-2に示した。

この表での「領域」は、その草原の存在する領域を示し、「両」は阿蘇五岳内にあり、南北両方にあてはまることを示している。また、図-1は地域住民が漠然と指摘した区域と既存の植生分布図を照らし合わせ、指摘した区域を修正して示したものである。根子岳には北側と南側にそれぞれ草原があり、しかも麓にしかない。しかしながら、地域住民の中で「根子岳北側麓」のような具体的な草原の位置を指摘した人は少なく、それは他の草原でも同じ事がいえる。よって、地域住民が草原を「根子岳の草原」「高岳の草原」のように漠然とイメージとして捉えているのがわかった。このことから表-2では、「根子岳」のように実際には山麓のある特定の部分にしか草原が存在しないものもその地名のみ表記した。

表-2より、草原の領域と、件数の南北による割合を見てみると、地域住民が居住地と同じ領域にある草

原を認識しやすく、違う領域に存在する草原に関する認識が薄いということがわかった。「両」に関しては、南北の地域住民からはほぼ同じ割合の件数を得ていて、どちらからも認識されやすいということがわかった。

分析結果により、草原の位置が居住地に近い程認識されやすく、また、地域住民は自分の居住地に近い草原に愛着を感じていると思われる。「荻岳」「清栄山」等の知名度も低く件数の少ない草原であっても、地域住民にとってはかけがえのないものであり、指摘件数の多い草原だけを保全すればよいとは一概にはいえないことがわかった。

表-1 地図指摘法により選択された地域住民の好きな草原景観

ランク	地名	件数	割合
1	阿蘇五岳	40	19.3%
2	草千里ヶ浜	33	15.9%
3	穂子岳	25	12.1%
4	大嶺峠	19	9.2%
5	嶺山	15	7.2%
6	北外嶺	14	6.8%
7	瀧の本高原	12	5.8%
	瀧の本高原	12	5.8%
9	米塚	7	3.4%
	仙酔峡	7	3.4%
11	高岳	6	2.9%
12	葉子ヶ鼻	4	1.9%
	増辺原野	3	1.4%
13	夜峰山	3	1.4%
	荻岳	3	1.4%
16	南外嶺	2	1.0%
	清栄山	2	1.0%
—	合計	207	100.0%

表-2 地域住民が指摘する草原の領域(北・南・両)と居住地との関係

ランク	地名	件数	領域	居住地による件数と割合			
				北	割合	南	割合
1	阿蘇五岳	40	両	23	57.5%	17	42.5%
2	草千里ヶ浜	33	両	12	36.4%	21	63.6%
3	穂子岳	25	両	13	52.0%	12	48.0%
4	大嶺峠	19	北	17	89.5%	2	10.5%
5	嶺山	15	南	1	6.7%	14	93.3%
6	北外嶺	14	北	13	92.9%	1	7.1%
7	瀧の本高原	12	北	11	91.7%	1	8.3%
	瀧の本高原	12	北	8	66.7%	4	33.3%
9	米塚	7	北	4	57.1%	3	42.9%
	仙酔峡	7	北	6	85.7%	1	14.3%
11	高岳	6	両	5	83.3%	1	16.7%
12	葉子ヶ鼻	4	北	4	100.0%	0	0.0%
	増辺原野	3	北	3	100.0%	0	0.0%
13	夜峰山	3	南	0	0.0%	3	100.0%
	荻岳	3	北	3	100.0%	0	0.0%
16	南外嶺	2	南	0	0.0%	2	100.0%
	清栄山	2	南	0	0.0%	2	100.0%

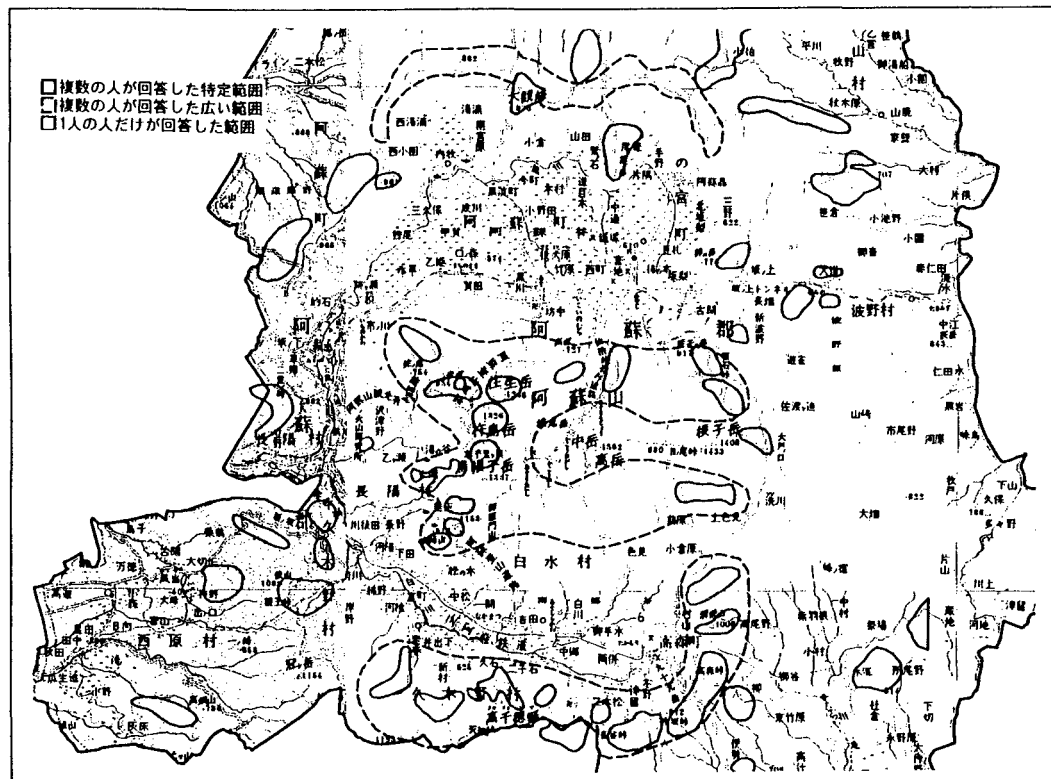


図-1 地図指摘法によって明らかになった地域住民の好きな草原景観の範囲

参考文献

- 1) 環境省 (2000) : 国立公園内草原景観維持モデル事業実施計画 (案) : 環境省
- 2) 麻生恵・堀江篤郎(1993) : 岡山県森山地域における景観計画と地元住民の景観認識構造について、造園雑誌 56(5), pp205-210